



海外

稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会長メッセージ

今から思えば、学生時代はあまり深刻な悩みもなく、楽しい生活を送っていました。卒業と同時に某建設会社に入社し、13年間の現場勤務(2年間の米国における研修も含む)の後に退社しました。韓国の建設会社が受注した、クウェートにあるホリデイ・インホテル(400室)の建設アドバイザーとして1979年から2年間勤務し、その後82年5月からインドネシアに移り40年が過ぎたところです。ジャカルタ稲門会の会長を92年から務めさせていただいています。

これまでの稲門会活動は、ゴルフ早慶戦、クリスマス会、食事会(米米会)が主でしたが、残念ながらこの2年間はコロナのおかげでほとんど活

動できませんでした。

これから卒業される方、および卒業生でインドネシアに赴任される方への支援もさせていただく所存です。お問い合わせを幹事一同お待ちしております！

阿部 武(1966年理工)



2021年10月に開催した、当会の精神的支柱である、阿部会長の傘寿祝い

会員からのメッセージ

2000年代半ばに駐在中米グアテマラは、当時在留邦人全員を合わせても100人には及びませんでした。それだけに当地でのジャカルタ稲門会の規模・熱気、最初は圧倒されたものです。駐在員およびその家族を中心にメンバーが定期的に交代する中、「集り散じて人は変れど」の歌詞の重みを改めてかみ締め、校友であることの誇りを再認識しつつ、充実した駐在生活を送っています。

堤 隆敏(1995年政経)

稲門出身の同僚のすすめで、赴任2年目に稲門会ゴルフデビューを果たしました。デビュー戦では緊張の中、実力以上のスコアをたたき出し、気をよくした勢いと進取の精神にて、今ではゴルフ幹事として行事のお手伝いをさせていただいています。

海外における、過去に同じ経験や時間を過ごしたことによる安心感や連帯感、そして人の輪の広がり、非常に魅力を感じています。

当地に赴任されましたら、ぜひご入会ください。お待ちしております！

鳥居原 淳二(1995年理工)

2020年1月に赴任して間もなく、インドネシアで新型コロナウイルスの感染が拡大しました。現地でのネットワーク作りがなかなか難しい中、ジャカルタ稲門会を通じて、さまざまな年次・業種の方々と交流できることが非常にありがたく、改めて稲門会の絆の深さを実感しています。他大学との対抗ゴルフコンペなど、コロナ禍の影響で各種イベントの開催はまだ難しい状況にありますが、来るべき日を楽しみに自己鍛錬にいそむ日々でございます。

笠井 洋(2009年商学、18年経管研)



2018年秋、ゴルフ早慶戦の打ち上げ。連敗を10で止め、大いに盛り上がった

ジャカルタ稲門会について

ジャカルタ稲門会は、1975年11月に正式に結成されてから間もなく半世紀を迎えようとしています。前回2011年の早稲田学報掲載時に60人だった会員は、今や125人を数えま



校歌斉唱を懸けて戦うゴルフ早慶戦。現在、3連勝中

す。コロナ禍により懇親会・忘年会やゴルフコンペといった通常の活動は制限を余儀なくされました。しかし、ワクチン接種や病院の空き情報などのコロナに関連した情報交換を行うことができ、改めて稲門会のつながりのありがたさを感じることができました。

一大イベントであるゴルフ早慶戦は両校32人ずつが参加し、六大学野球同様、春秋の年2回開催。母校の名誉と、勝利校のみに許される閉会式での校歌(塾歌)斉唱の権利を懸けて、オリジナルユニホーム着用の上、真剣勝負が繰り広げられます。戦績は2000年代半ば以降、稲門会が10連勝、その後18年春までは三田会が10連勝。同年秋に記録更新を阻止してから稲門会が3連勝で、コロナ禍による中断に入りました。稲門会員一同、再び肩を組んで校歌を斉唱できる日を心待ちにしています。

幹事長 堤 隆敏(1995年政経)

ジャカルタの魅力

フなどのアクティビティーも楽しむことができる、住む人を飽きさせない国です。

森本 雄(2007年理工)

(上)高層ビルと一般住宅が共存する街並み
(下)世界遺産、ジャワ島ボロブドゥール寺院の仏教遺跡



世界最大の島しょ国であるインドネシアは、総人口2億7千万人を有し、首都ジャカルタはほぼ赤道直下に位置する熱帯性気候の国です。

国民の大部分がイスラム教徒であることから街にはお祈り場(モスク)が点在しており、決まった時間に流れる礼拝への呼び掛け(アザーン)の音が日常の風景として溶け込んでいます。インドネシアの人々は総じて明るくからか、多様性を認める国是もあり、外国人に対しても非常に親切です。その点は、ビジネス、プライベートの両面において、海外生活でしばしば感じてしまう不安を和らげてくれる要素と言えるでしょう。

コロナ禍で多少の鈍化はみられるものの、人口をベースとした巨大なマーケットを抱えるインドネシアは今後も投資、経済発展が続いていくことは間違いありません。

余暇を過ごす場所としても、バリ島をはじめ、ジャワ島の遺跡などの観光地が多数あり、ゴル